



令和 2 年 7 月 10 日

独立行政法人 国立科学博物館

YS-11 量産初号機組立作業特別見学会 ～組立作業をザ・ヒロサワ・シティ(茨城県筑西市)で特別見学～

国立科学博物館(館長 林 良博)は保有する, 我が国唯一の純国産民間輸送機 YS-11(量産初号機)を, 今年 3 月 27 日に羽田空港格納庫内からザ・ヒロサワ・シティ(茨城県筑西市)に移設しました。7 月 11 日(土)から 26 日(日)まで組立作業を期間限定で特別に公開(無料)します。

特別見学会開始前日(7 月 10 日(金))に近隣の子どもたちを招待し, YS-11 のプロペラ取付作業を報道向けに公開するとともに, 当館林館長から YS-11 を組立公開する資金獲得(クラウドファンディング)開始を発表します。

※公開日の 7 月 11 日は, 昭和 37 年に YS-11 が完成した日です。



ザ・ヒロサワ・シティにて組立を待つ YS-11(量産初号機)

《報道向け公開》

日時: 7 月 10 日(金) 13 時から

場所: ザ・ヒロサワ・シティ(茨城県筑西市) (<http://www.shimodate.jp>)

航空ミュージアム内(※別添地図参照)

当日, 国立科学博物館林館長, ザ・ヒロサワ・シティ廣澤会長, 近隣の子どもたちがプロペラ取付作業を見学します。

現役飛行中の当機体映像や解体作業や羽田空港からザ・ヒロサワ・シティへの移動の様子など記事掲載において必要な動画・静止画を御希望の方はメールにて御連絡ください。

《期間限定 組立作業特別見学会》

7月11日(土)から26日(日)の10時～15時、航空ミュージアム内で組立作業の様子を見学できます(無料)。

《クラウドファンディング》

国立科学博物館は、我が国唯一の純国産民間輸送機であるYS-11の量産初号機を恒久展示するために、20年にわたり羽田空港で整備・保管してきました。本機を多くの方に見ていただくために、ザ・ヒロサワ・シティ(茨城県筑西市)に移設しました。

移設のために分解した機体の組立作業を開始しましたが、昨今の新型コロナウイルスの影響による臨時休館や入場者数制限のために、入館料収入が激減し、財政状況が悪化しており、YS-11を組立て公開するための資金が不足しています。そのため、クラウドファンディングにより資金を募ります。

なお、本クラウドファンディングの詳細は、7月10日(金)の報道向け公開の際に、林館長が発表いたします。本件については、以下問い合わせ先メールに御連絡ください。

クラウドファンディングサイト:A-port (<https://a-port.asahi.com/>)

期間:令和2年7月10日(金) 開始予定

【問い合わせ先】

独立行政法人国立科学博物館

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

《報道向け公開》

広報・運営戦略課長 吉野千津

Tel:03-5814-9855 Fax:03-5814-9898

E-Mail: shuzai@kahaku.go.jp

《期間限定 組立作業特別見学会, クラウドファンディング》

マーケティング・コンテンツグループ長 中島徹

YS-11 クラウドファンディング担当 岩崎・内尾・豊田

Tel:03-5814-9158 Fax:03-5814-9899

E-Mail: YS-11project@kahaku.go.jp

YS-11 量産初号機について

1 保存に至る経緯

平成 11(1999)年 1 月に退役する YS-11 量産初号機の保存のため、当時の運輸、文部、通産、大蔵等関係省庁で協議され、国立科学博物館において維持管理が望ましいとの合意がなされた。

国立科学博物館は、平成 11 年 2 月 26 日付で運輸省航空局長宛に YS-11 量産初号機の取得要望書を提出。同年 8 月に運輸省から管理換を受けた。

2 保存目的

当館が保管する YS-11 は、我が国航空機製造事業の期待を一身に受けた量産初号機(製造番号 2003)である。機体登録番号は JA8610 と、YS-11 全機中一番若い番号を与えられている(試作機 2 機の製造番号はそれぞれ 2001, 2002, 機体登録番号は JA8611, JA8612 であった)。

昭和 40 年 3 月に運輸省航空局に納入され、「ちよだⅡ」と命名されて、羽田空港をベースに、飛行検査機として 2 万時間を越える飛行実績を有する。

我が国唯一の純国産開発の民間輸送機であり、国家支援のもと性能・経済性等世界的評価を得て、世界で活躍した YS-11 であり、特に

- ① 我が国航空関係者の「汗と涙」が結晶され、わが国航空機製造事業の期待を一身に受けた栄えある量産初号機
- ② 現存する YS-11 の中で試作機を除く最古の機体
- ③ 我が国の飛行安全確認の点検機として任務を全うした航空機である。

また、平成 19 年には「機械遺産」(日本機械学会)に認定され、さらに、平成 20 年にも「重要航空遺産」(日本航空協会)として認定されている。

※機械遺産……日本機械学会が審査、認定する日本の機械技術発展に寄与したもの。日本機械学会は 2007 年 6 月に創立 110 周年を迎え、その記念事業の一環として、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、日本国内の機械技術面で歴史的意義のある「機械遺産」(Mechanical Engineering Heritage)を認定することにした。2007 年から始まり、現在まで 76 件が登録されている。

※重要航空遺産…日本航空協会が、歴史的文化的に価値の高い航空遺産を「重要航空遺産」として認定し、その意義を広く社会に知らしめるとともに、後世に遺していくため「重要航空遺産認定制度」を平成 19 年に設立した。平成 20 年に、国立科学博物館が所有する「YS-11 輸送機量産初号機」および埼玉県が所有する「九一式戦闘機」を初の「重要航空遺産」として認定し、現在まで 8 件が登録されている。

このように YS-11 量産初号機は、我が国戦後復興の象徴であり、将来に継承していくべき国民の貴重な財産である。航空機史上重要な価値を持つ YS-11 の中でも記念碑的価値の高い機体であり、我が国の貴重な産業技術資料としての価値を減じないよう、風雨の影響等を避けるための屋内保管や継続的な定期点検の実施など計画的な保存に努め、劣化や損傷、不可逆的な改変を防ぎ、できうる限り移設時の状態に近い形で保存する。

3 保管場所、保管状況

平成 11 年 8 月運輸省から管理換されて以降、当館では YS-11 量産初号機の良い保存に努めるため、風雨を防ぐことができ、また定期的なメンテナンスを行うことが容易である羽田空港内の格納庫で保存を行ってきた。

平成 11 年 6 月 運輸省、文部省、科博、JAL で保管に関する覚書締結

平成 24 年 3 月 国土交通省 T-101 格納庫へ移転

平成 28 年 8 月 空港施設(株)大型格納庫(羽田空港)へ移転

令和 2 年 3 月 27 日 ザ・ヒロサワ・シティ(茨城県筑西市)へ移転

令和 2 年 6 月 22 日 組立開始

令和 2 年 7 月 11 日 組立作業一般公開

令和2年3月27日

羽田空港格納庫からザ・ヒロサワ・シティへの移設作業

(1) 積み込み作業(胴体積み込み)

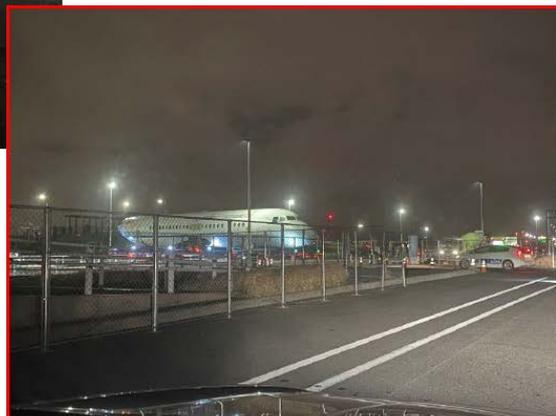


作業(2) 羽田空港内のハンガーから国際ゲート横駐車場に移動



ハンガーを出て、駐機場の飛行機の中を移動するYS-11

作業 (3) 28日午前零時、胴体に乗せた輸送車が移動開始



空港駐車場から一般道へ

作業 (4) 一般道をザ・ヒロサワ・シティ (筑西市) に向けて移動



品川駅前通過 (午前1時頃)



上野駅前通過 (午前1時44分頃)



草加市清門町北交差点 (午前2時36分頃)



越谷市平方付近 (午前2時57分頃)



作業(5)(6) ザ・ヒロサワ・シティ 展示室に胴体・翼を搬入



最後の左翼を積み卸して移転終了 (午後2時頃)

ザ・ヒロサワ・シティ

〒308-0811 茨城県筑西市 ザ・ヒロサワ・シティ
筑波山の麓に広がる「自然・健康・文化」をテーマとした
100万㎡のテーマパーク



下館パークゴルフ場 下館ゴルフ倶楽部

日本パークゴルフ協会認定のパークゴルフ場は本州最大級の72ホール。ゴルフ倶楽部は広々としたフラットな地形を活かした18ホールで、戦略性の高いコースを設計。

廣澤美術館

建築家・隈研吾氏的设计による美術館。
分館も含め日本の代表的な芸術家の作品を数多く収蔵。



クラシックカーミュージアム
クラシックバイクミュージアム
ロールスロイスシルバーレイス、
キャデラックエルドラドなどの
昔懐かしい名車が勢揃い。



レールパーク

YS-11の格納庫の横には、
蒸気機関車(D51-1116)、新
幹線(E224-127)、寝台特急
北斗星などの車両が並ぶ。



四季折々の花が楽しめる花木園、農園、バーベキュー場、イベント広場、ドッグラン、オフロードコース、MTB オフロードコース、1周4.2195kmのマラソンコース、ロッジ、ドームハウス、滞在型農業体験施設、貸農園、輸入車・中古車販売、アトリエ、幼保連携型認定こども園のヒロサワ・シティこども園、つくば歯科福祉専門学校、など多くの施設がある。



